美術館通信 vol.38

現役医師・山下武右氏が収集した稀有な作品群

企画展 コレクターズ episode1

展示替えしました！



今回展示しているのは、すべて美術館未収蔵の作品。最初で最後のチャンスです。斎藤清のまだ見ぬ一面をぜひご覧ください！



総入れ替え！



パリや京都の風景から、かわいい動物たち、貴重な墨画も！

どちらも 4/10まで！

好評開催中！



やないづの家宝展 2021



地域おこし協力隊が、柳津町の「お祭り」について町民のみなさんを取材し、その成果として胄中のニンギョウマンギョウの藁人形、七日堂裸詣りの下帯などを展示しています。

私たちが出会った「やないづのたからもの」ぜひご覧ください！



斎藤清 私の半生 第十一話

前回のあらすじ

「絵描きになりたい」と日本画家に弟子入りを志願するが、叶うことはなかった。

再び看板を描く日々の中で、絵の勉強の必要に迫られる。そんな時、小学校の教師・成田玉泉に出会う。



五円の月謝を払い、初めて石膏デッサンと油絵を習うことになった。

成田先生は青森出身で友達に棟方志功さんがいた。

志功さんは非常に変わっていて、白日展に初入選したとき、東京都美術館前で長靴をはいたまま踊りを踊る奇行があると先生から聞いた。



成田先生も白日展に入選しており、自分も一度でいいから



そういう公募展に入選してみたいと思い、白日展にあこがれた。

その後、志功さんが小樽を訪れたとき、



成田先生に紹介され、初めて会った。

その後

私が上京するに及んで、知る人とていない私は



高円寺に住んでいた志功さんのところをよく訪ね、二人は親しくなった。

そのきっかけとなった成田先生には、約一年間デッサンから油絵について教わった。

絵で師についたのは、後にも先にも成田先生だけだった。

つづく

美術館の舞台裏
～地域おこし協力隊の、とある日～

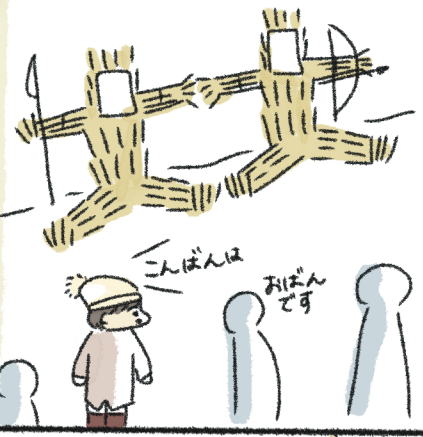
油断すると凍ってる

雪道なれてきたぞ～

ザクザク

非日常

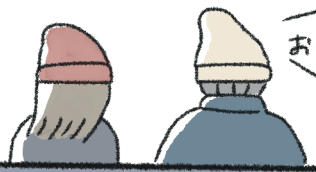
二月二日、ニンギョウマンギョウのワラ人形を燃やす行事を見に



肘中地区に行きました

体の悪いところに割箸をさすのですが





私は肩とひざにさしました

そして、燃えるワラ人形を前に、協力隊みんなで



歌をうたいました



終わったら全身ススまみれに。



村の一員になれた気がして楽しい夜でした。

差し込れ

家宝展の取材に協力してくださった方から



納豆の差し込れを頂きました

なんと、手作り納豆。



協力隊みんなで分けあいました。



大豆の味がしっかりした納豆本来の味がしました。

※家で食べました

（柳津に来るまで）納豆を「手作りする」発想すらなかったので



驚きでした。自分でも作ってみたいです！

0241-42-3630